



全苗連だより

Vol. 45 (4月号)

平成30年4月27日

発行：全国山林種苗協同組合連合会

Tel.03-3262-3071 Fax.03-3262-3074

「コンテナ苗の普及並びに生産技術向上を目的とした 研修会(国庫補助)」が新たに始まります

全苗連は、国庫補助事業である「平成30年度優良種苗低コスト生産推進事業のうち苗木生産技術の向上等事業」に応募し、事業実施主体に選定されました。この事業に基づき、以下の(1)から(6)のコンテナ苗生産の研修会・巡回指導等を実施することになります。

実施するに当たってのポイントをまとめましたので、ご承知願います。特に、(4)の「造林者等を対象としたコンテナ苗の植栽に関する研修会」は、コンテナ苗の需要が益々拡大する中で、実際に植林作業に携わる者にもコンテナ苗についての正しい知識、情報を普及しようとするものです。造林関係者はもとより、一貫作業システムを担う伐採事業者や行政関係、森林所有者等の発注者の参加も期待しての研修です。

(1) コンテナ苗生産未経験者を対象とした研修会の実施

新たにコンテナ苗の生産を行ってみようとする者の中には、コンテナ苗の良さを理解はしているものの、その一方で初期投資、得苗率、コンテナ苗の需要見通し等に不安を持つ者もいます。

このため、基本的なコンテナ苗生産の基礎知識・技術を習得するための座学・現地見学研修会を次のことにも留意して実施します。

また、単にコンテナ苗生産者の新規参入、増加を期待するだけでなく、高齢化が進む中で、労務軽減等のメリットがある観点から、裸苗生産からの転換を視野に入れての研修会も実施します。

(2) コンテナ苗生産に新規参入後、間もない事業者を対象とした研修会の実施

新規参入者の中には、コンテナ苗作りについてのある程度のイメージや基本的なマニュアルは承知していても、養苗に当たって地域的な気象条件、日々の天候、施設の状況、育苗樹種の特性等によって、いわゆる臨床的な育苗技術を必要としている者もいます。このため、コンテナ苗の播種、かん水、施肥、ビニールハウス内の温度管理、コンテナ棚の配置、山行苗の養生等の苗木生産技術を習得するための実地研修会を実施します。

(3) コンテナ苗生産経験者を対象とした巡回指導の実施

コンテナ苗生産経験者が、コンテナ苗の供給量を拡大していくためには、コンテナ苗生産の大規模化や低コスト化に取り組む等の技術向上及び技術開発・実証試験等が必須です。このため、行政機関等とも連携し、次のことに留意して巡回指導等を実施します。

播種、かん水、施肥及び病虫害防止の基本技術のレベルアップ並びに2年生苗から1年生苗へのシフト等育苗期間の短縮、コンテナに直接挿木する育苗等技術向上を図る取り組みとともに、更に、種子の少ないカラマツ及びクリーンラーチ（グイマツ雑種 F1）の挿し木によるコンテナ苗の育苗、試験植栽も含めた現地植栽指導、夏から秋の枯死率が高いカラマツの育苗等の巡回指導に取り組むこととしています。

（4）造林者等を対象としたコンテナ苗の植栽に関する研修会の実施

実際に植林作業に携わる者等に、コンテナ苗の使用が造林作業の効率化と労働負荷の軽減につながることで、根鉢が形成され、一畝植えなどの簡易植栽が可能で活着率が高いこと、植栽時期を選ばず低コスト造林に寄与することなど、コンテナ苗使用のメリットを理解し、また、実際の植栽、運搬方法などについて習得するための座学・現地見学研修会を実施します。

特に、実地研修では研修フィールドの選定を工夫することで、例として、コンテナ苗の植栽後数年経過し成林した現場をフィールドにすることにより、造林者のコンテナ苗使用に対する抵抗感を払拭することや、伐採・造林の一貫作業システムに取り組み、コンテナ苗が低コスト造林の成功に繋がっていることを体験することで、コンテナ苗利用のメリットに対する理解がより深まることが期待されます。一貫作業システムに取り組んでいる国有林や水源林整備事業箇所、県有林等の公有林などが研修フィールドとして考えられ、行政機関等との連携を図る必要があります。

（5）その他研修会の実施等

上記（1）から（4）まで以外でコンテナ苗の生産又は利用拡大に必要な技術を習得するための研修会を実施するものです。コンテナ苗生産量は年々増加しているものの、都道府県別のコンテナ苗への取り組み進捗や、樹種特性、地域特性等に対しての技術力には差異が生じています。既存造林地の植栽コンテナ苗及び裸苗の活着や初期成長の調査比較を行ったり、早生樹種コウヨウザン等のコンテナ苗の導入など地域のニーズに合ったコンテナ苗の供給に係る課題等に対する検討、技術の研鑽を行うものです。

（6）種苗の需給情報等を共有する取組

生産量が需要量を大きく上回っていたこれまでの苗木の需給環境に、このところ大きな変化が生じています。具体的には、①裸苗からコンテナ苗への切り替え、②特定母樹由来や花粉症対策苗木の需要拡大、③カラマツの増産等、質量ともに時代のニーズに対応することが求められています。

これらの変化に的確に対応して優良な種苗を安定的に供給するには、①苗木生産に掛かる時点での精度の高い数年先の需要量把握が求められ、②次に、植栽時点における苗木移出入の円滑な調整が重要となります。

具体的には、都道府県、苗木生産者、苗木需要者、伐採事業者等間での種苗の需給情報等を

適確に共有することが重要であり、それには、それぞれの者がもつ情報を一元化して整理、分析し、それぞれの者にフィードバックする体制を作ること等種苗の需給情報等を共有する取組について検討し、実行に移す必要があります。

また、苗木の生産余剰や不足を極力発生させないような需給システムの導入も重要な課題であり、これについても検討する必要があります。

全苗連・苗組の行事予定

～H31.3 ①コンテナ苗生産未経験者を対象とした研修会の実施 ②コンテナ苗生産に新規参入後、間もない事業者を対象とした研修会の実施 ③コンテナ苗生産経験者を対象とした巡回指導の実施 ④造林者等を対象としたコンテナ苗の植栽に関する研修会の実施 ⑤その他研修会の実施等 ⑥種苗の需給情報等を共有する取組
実施者;全苗連、都道府県苗組

4月23日 全苗連生産者の集い実行委員会(岡山市)

4月26日 全苗連事業監査

5月10日 一般社団法人林業薬剤協会第1回理事会(学士会館)

5月11日 全苗連理事会(砂防会館)

5月12日 第28回「みどりの感謝祭」(イイノホール)

5月15日 東北森林管理局コンテナ苗生産技術に係る意見交換会(アクティブリゾート宮城蔵王)

5月25日 全苗連通常総会(砂防会館)

5月30日 一般社団法人林業薬剤協会通常総会((学士会館))

6月10日 第69回全国植樹祭ふくしま2018(福島県)

6月21日 全苗連東北・北海道地区協議会総会(新潟県)

9月 6日 全苗連生産者の集い(岡山コンベンションセンター)

～7日